



Kurashiki Academic Winds

*The 6th
Regular Concert*

February 1, 1998

倉敷アカデミックウインズ 第6回定期演奏会

1998年2月1日(日) 14:00 開演 倉敷市芸文館

Greetings

『ごあいさつ』

ここに第6回定期演奏会を迎えますことは誠に喜ばしくご同慶の至りでございます。

当バンド発足以来団員数と共に年間の活動回数も次第に増加し、地域への慰問演奏等一層密接な結びつきを実感することができましたことは私達の本望とする所であり嬉しく思っております。これはとりもなおさず皆様方との暖かい心の交流があるからではないでしょうか、私達にとってそれが音楽への心をよりかきたて、くれます。

昨年は県吹連へ加盟し全日本コンクール県大会に初出場する貴重な経験もしました。僅かな一歩が意義ある財産として心に銘記して励んで行く所でございます。日頃皆様の一寸したご支援が私達にとって如何に大きな励みになっていることでしょうか。相互の心と音の交流と確認をしながら着実に一步ずつ踏みしめて行きたいと思っております。

最後になりましたが皆様の暖かいご支援ご鞭撻を今後とも重ねてお願い申し上げます。

倉敷アカデミックウインズ団長 平松 正登

『御挨拶』

本日はお寒い中、倉敷アカデミックウインズの定期演奏会にお越し下さいまして、まことにありがとうございます。皆様の支えにより6回目の演奏会を開催することができました事、心から御礼申し上げます。

昨年の演奏会からの一年間に「倉敷アカデミックウインズ」は大きな変化を経験いたしました。昨年4月、岡山県一般吹奏楽連盟に加盟し、「バンドフェスティバル」、「全日本吹奏楽コンクール岡山県大会」に参加いたしました。初めてのコンクールは、その準備において大変苦労しましたが、運営面、音楽面において大変勉強になる経験でした。結果は銀賞でしたが、各方面から好評をお聞きすることができ喜んでおります。この時の成果を本日の演奏会で少しでも発揮できればと思い、練習に励んで参りました。

本日のプログラムは皆様に楽しんで頂けるよう、団員が時間をかけて考えました。精一杯心を込めて演奏いたします。どうぞ、最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

倉敷アカデミックウインズ総務 高見 康彦

Program

First Stage

- | | |
|--|----------------------------------|
| 交響的祝典と舞曲 ◆ R. フォスター | |
| <i>Symphonic Celebration and Dance</i> | <i>Robert Foster</i> |
| 世俗カンタータ『カルミナ・ブラーナ』 ◆ C. オルフ | |
| <i>Carmina Brana</i> | <i>Carl Orff</i> |
| | <i>Arranged by J.Krance</i> |
| 第1曲 おお、運命の女神よ | <i>O Fortuna, velut Luna</i> |
| 第2曲 運命の女神の痛手を | <i>Fortune plango vulnera</i> |
| 第5曲 見よ、今や楽しい | <i>Ecce gratum</i> |
| 第6曲 踊り | <i>Tanz - Un dem anger</i> |
| 第10曲 たとえこの世がみな | <i>Were diu welrt alle min</i> |
| 第14曲 酒場に私がいるときにや | <i>In taberna quando sumus</i> |
| 第15曲 キュービッドはあちらこちらへ飛び回る | <i>Amor volat undique</i> |
| 第21曲 天秤に心をかけて | <i>In trutina</i> |
| 第24曲 アヴェ、この上もなく姿美しい女 | <i>Ave formosissima</i> |
| 第25曲 おお、運命の女神よ | <i>Fortuna, Imperatrix Mundi</i> |

Second Stage

- | | |
|-----------------------------------|---|
| ザ・イヤー・オブ・ザ・ドラゴン ◆ P. スパーク | |
| <i>The Year of the Dragon</i> | <i>Philip Sparke</i> |
| 羊は静かに草をはみ ◆ J.S. バッハ | |
| <i>Sheep May Safety Graze</i> | <i>Johann Sebastian Bach</i> |
| (Cholare from Cantata No.208) | <i>Arranged by A.Reed</i> |
| バレエ組曲『火の鳥』1919年版 ◆ I.F. ストラヴィンスキー | |
| <i>Suite de "L'oiseau de Feu"</i> | <i>Igor Feodorov Stravinsky</i> |
| | <i>Arranged by R.Earles and F.Fennell</i> |
| 序奏 | <i>Introduction</i> |
| 火の鳥の踊り | <i>L'oiseau de feu et sa danse</i> |
| 火の鳥のヴァリアシオン | <i>Variation de l'oiseau de feu</i> |
| 王女たちのロンド | <i>Ronde des princesses</i> |
| 魔王カステイラの凶悪な踊り | <i>Danse infernale du roi Kastchei</i> |
| 子守歌 | <i>Berceuse</i> |
| 終曲 | <i>Final</i> |

Third Stage

- | | |
|-----------------------------|--|
| セントルイス・ブルース・マーチ ◆ G. ミラー | |
| <i>St.Louis Blues March</i> | <i>Glenn Miller</i> |
| | <i>Arranged by W.C.Handy</i> |
| ムーンライト・セレナーデ ◆ G. ミラー | |
| <i>Moonlight Serenade</i> | <i>Glenn Miller</i> |
| | <i>Arranged by S.Kojima</i> |
| ベニー・グッドマン・メドレー ◆ B. グッドマンほか | |
| <i>Benny Goodman Medley</i> | <i>Benny Goodman, Edger Sampson etc.</i> |
| | <i>Arranged by N.Iwai</i> |

交響的祝典と舞曲

曲の冒頭、祝典に相応しい金管のファンファーレから暖かい響きのコラールが導かれ、一転、バスーンにリードされてミステリアスなフレーズが現れたのちに異国的な舞曲が静かに始まります。舞曲のテーマはシンコペーションを伴って次第に盛り上がり、やがて金管と打楽器の変拍子によって最高潮を迎えます。その後はコラール、ファンファーレと主題が逆行していき、*Dramaticary* から *Maestoso* へと壮大に終結します。

世俗カンタータ『カルミナ・ブラーナ』

カミンスキーに師事して古楽へと傾倒し、同時に「オルフ・システム（舞踏・体操・音楽の総合教則本）」に見られるように演劇・舞踏・音楽の融合に感心したオルフは、古い大衆歌曲集「カルミナ・ブラーナ」をモチーフにソプラノ、テノール、バスと混声合唱団、児童合唱、ダンサー、各種打楽器を含む3管編成のオーケストラという巨大な編成による舞台用作品『カルミナ・ブラーナ（1937）』を完成させた。これは『カトゥーリ・カルミナ（1943）』『アフロディテの勝利（1951）』へと続く『トリオンフィ（勝利）三部作』の第1作目となる。なお『カルミナ・ブラーナ』は、愛をはじめとした「人間の営み」を「運命」の間に挟むという比喩的な構成で成っている。本日演奏する曲の大意は次のとおり。

§ 序：全世界の支配者なる運命の女神

第1曲「おお、運命の女神よ」

おお、運命の女神よ まるで月のように変貌する 意地悪な目つきをしたり 愛想良くしたり
ときには貧しく ときには富を 与えるかと思えば氷のように溶かして消してしまう
時の運によって 強い者さえあなたの手落ちてしまう
さあ 皆さんも私と一緒に嘆いてください

第2曲「運命の女神の痛手を」

運命の女神の与えた痛手を 涙をこぼしながら私は嘆く またもや冷たい仕打ちに出られたことを

§ 第1部：初春に

第5曲「見よ、今や楽しい」

見よ、今や楽しい 待ち望んでいた春は喜びを連れてきた
さあ、もう暗い気持ちは追い払おうよ 暖かい季節が戻ってくるよ 厳しい冬の寒さは去っていくよ

§ 第1部-2：芝生の上で

第6曲「踊り」（音楽のみ）

第10曲「たとえこの世がみな」

たとえこの世がみな私のものだとしても 海もライン川までもが私のものだとしても
私はそれを捨ててもいいよ 英国の女王が私の腕にしがみついて頼むというならばね。

§ 第2部：酒場で

第14曲「酒場に私がいるときにゃ」

酒場に私がいるときにゃ 墓主なんか気にもとめず 遊びのために汗を流す
旦那が飲めば奥さんも飲む 若者も爺さんも 坊さんも司祭も その女もあの男も みんな飲むんだ
それでわしらはいつも文無し 文句を言う奴は犬に食われる いずれ悪魔に捕まるがいい

§ 第3部：愛の誘い

第15曲「キューピッドはあちらこちらへ飛び回る」

キューピッドはあちらこちらへ飛び回る
愛しい想いとらわれた若者たちや乙女たちが 結ばれるのもあたりまえ

第21曲「天秤に心をかけて」

天秤に心をかけて あれかこれかと迷う想い・・・浮気な恋とつましさと。

§ 第3部-2：ブランツィフロールとヘレナ

第24曲「アヴェ、この上もなく姿美しい女」

アヴェ、この上もなく姿美しい女 高価な宝石、処女たちの誇り、栄光に満ちた乙女、灯火、バラの花
ブランツィフロールとヘレナ 高貴なる美の女神よ

§ 全世界の支配者なる運命の女神

第25曲「おお、運命の女神よ」（第1曲の再現）

ザ・イヤー・オブ・ザ・ドラゴン

この曲はもともと、ウェールズを代表するコーリー・バンドの結成 100 周年を記念する委嘱作品として 1984 年に作曲された金管バンドのための作品であった。吹奏楽への編曲はバーミンガム・スクールズ・ウィンド・オーケストラから委嘱され、1986 年に同バンドによって初演された。タイトルの「ドラゴン」とはウェールズの紋章である赤い龍のことで、映画「イヤー・オブ・ザ・ドラゴン」との関連はない。作曲当時にコーリー・バンドが全英金管バンド選手権において 2 年連続優勝という快挙を成し遂げたため、これを讃える意味で名付けられた。

第 1 楽章 トッカータ

Molto Allegro, con malizia (悪意・邪心をもって非常に速く) ~ *Apassionato* (情熱的に)。金管楽器とスネアドラムによる鋭利なリズムに始まる。その後、曲はコーブランドやバーンスタインを彷彿とさせる近代アメリカ的なサウンドを含みながら情熱的に進行し、やがて最初のリズムを再現しながら深みへと沈んでゆく。

第 2 楽章 間奏曲

印象的な下降音階に始まる。その後コール・アングレ (イングリッシュホルン) の物憂げなソロが現れる。中間部はコラルのように美しく、徐々に増幅しながら全合奏による頂点へと高まっていく。曲は次第に静まってゆき、コール・アングレのソロを再現してから消え入るかのように思われるが、そのまま次の楽章へと続けて演奏される。

第 3 楽章 終曲

Molto Vivace (非常に急速に)。前楽章の静けさを打ち破るようなテュッティ (全合奏) の強打が続く。エネルギッシュに演奏される大変躍動的な楽章である。16 分音符の連続はバンドにとって腕の見せ所 (本日の演奏はいかに?) ソリスティックな旋律が各パートに交錯して現れ、曲はスリリングに展開する。クライマックスではファンファーレが高らかに鳴り響き、壮大かつ華麗なエンディングへと昇りつめていく。

羊は静かに草をはみ

1713 年 2 月 23 日、ドイツの小国ザクセン=バイセンフェルス公国の君主クリスチャン公の誕生日の祝宴で披露された公への慶祝カンタータ『楽しき狩りこそ わが喜び』BWV208 の中の第 9 曲アリア。

羊は静かに草をはむ

良き牧者が居りて見守るところに 良き君主が居りて治むるところに

静かな平和の影は著けく 国々を照らす幸福の光ぞ さやけし

バレエ組曲『火の鳥』

ロシア・バレエによる新しいバレエ『火の鳥』の作曲は当初リャードフに依頼されていたが、ストラヴィンスキーが恩師リムスキー=コルサコフの娘の結婚を祝って作曲した幻想曲『花火』を聴いたディアギレフは彼に惚れ込み、正式に『火の鳥』の作曲を依頼した。1910 年 6 月 23 日パリのオペラ座で開かれた初演は豪華なスタッフやキャスト、そして独創的な彼の音楽によって大成功を収めた。なおこのバレエにもとづく演奏会用組曲は 4 管編成の 1911 年版、本日演奏する 2 管編成で簡潔な 1919 年版、1919 年版に火の鳥と王子の情景を加えた 1945 年版の 3 つが存在する。

【バレエのあらすじ】王子イワンはある夜、魔王カステイの庭に迷い込む。そこへ輝きながら火の鳥が舞い降りてきます。王子はそっと近づいて火の鳥を捕らえましたが、火の鳥が懇願するので放してあげました。すると火の鳥は体から 1 本の羽を抜き取って王子に手渡します。「これは魔法から身を守る力のある羽です。お礼にさしあげます」そう言い残して火の鳥は飛んでいきました。

王子は次に庭で踊っている王女たちを見つけます。王子はそのうちの 1 人の姫に恋をしますが、彼女は言いました。「私たちは魔王に捕らえられていてここから出ることはできません。ここにいるとあなたも危険です、早くお逃げなさい・・・」そのとき、はたして魔王と部下たちがあらわれ王子を見つけます。魔王は怒って王子を石に変える魔法をかけようとしたが、王子は羽をかかえて間髪魔法を逃れました。すると火の鳥が飛んできて、魔王たちに魔法をかけて踊りを踊らせます。次に火の鳥が子守歌を歌い始めると、魔王たちは踊り疲れて眠りについてしまうのでした。その隙に王子は魔王の秘密の卵を割ってとどめを刺します。魔王の魔法がとけて王女達や石にされた人々は解放され、王子は姫と愛を誓い、全員で歓喜の踊りを繰り広げるのでした・・・。

第3部 ～The Swing Era～

『ザ・スウィング・エラ』…アメリカ音楽史上1935年から45年までの10年間が、そう呼ばれた時代。

多士済々のビッグバンドのリーダー達が、それぞれ支援グループを集めトップを競い合っていました。手と手を取り合ってダンスを楽しみ、あるいは演奏に聴き惚れるというロマンティックな《ひととき》を過ごすことができた古き良き時代。それから60余年、現代も親しみ継がれているスウィング・ビッグ・バンド音楽より、第3部では最も代表的な2人のビッグネームバンドによる名曲をお届けしたいと思います。

★グレン・ミラー★

ポピュラー音楽史上に一大金字塔を築き、人気絶頂のさなか空軍に志願して1944年12月15日、軍用機とともに霧の英仏海峡に消息を絶ちました。彼の楽団の輝かしいサウンドから生まれた数多くのヒット曲は時の流れを超えて今なお世界中の人々に愛され親しまれています。本日はその中から特に代表的な2曲をお送りします。

セントルイス・ブルース・マーチ

ブルースの父と呼ばれるW.C.ハンディが1914年に発表した名曲で、グレン・ミラーにとっては空軍バンド時代の大傑作。スーザ・マーチー色のような軍楽隊にとって、この豪華なスウィング・マーチは《革命》そのものだったのです（このマーチで米空軍は行進していたんですね！）。スネアドラムの打ち出すマーチのビートがそっくりそのままオーケストレーションされてエキサイトメントを提供してくれる、グレン最後の名曲。

ムーンライト・セレナーデ

グレン・ミラー自らの作曲で1939年夏のレコーディング以来大ヒットした、楽団の出世曲かつテーマ曲。そのメロディの美しさから『アメリカ第2の国歌』とまで言われている、クラリネットのリードが特徴のグレンミラーサウンド。

★ベニー・グッドマン★

1934年、当時24歳のグッドマンは初めて自分のバンドを結成し、ニューヨークのホールで旗揚げ公演を催して大成功。グッドマン時代の幕開け…それはスウィング・ジャズ時代の到来でした。自らクラリネットを手にしたバンドマスターとして、社交ダンスと結びついたジャズ音楽を数多く広めるとともに、黒人ミュージシャンを積極的に採用したり、クラシック音楽以外の分野で初めてカーネギーホールでコンサートを開くなどアメリカのジャズの歴史において画期的な足跡を数多く残したのです。1986年6月13日に77歳でその生涯を閉じましたが、その業績から『キング・オブ・スウィング』として今日でもその称号を讃えられています。

ベニー・グッドマン・メドレー

彼の楽団による数多くのヒットナンバーより、まず序奏はジャズ・クラリネット・バラッドといえばこれ！自伝映画「ベニー・グッドマン物語(1955)」のラヴ・テーマとして用いられ人気を博した『メモリーズ・オブ・ユー（君が思い出）』からテーマの変奏。原曲は黒人ピアニストのユービー・ブレイクがミュージカル「ブラック・パズ」のために作曲した甘美なバラッドです。続いてバンドの準テーマ曲ともいべき2曲『その手はないよ』と『サヴォイでストンプ』。そして当時のメンバーでヴィブラフォン奏者のライオネル・ハンプトンが、独立した後も自らの代名詞のように演奏した有名なジャンプナンバー『フライング・ホーム』。その後再び『メモリーズ・オブ・ユー』、軽快な『ビュグル・コール・ラグ』と続き、最後の締めはやはりこの曲、『シング・シング・シング』。フレッチャー・ヘンダーソンのテーマを活かしたルイ・プリマの改作で、1938年のカーネギーホール・コンサートで一躍有名になりました。ドラムスが奏でるドライブ感が特徴的な、これもまたグッドマンの代表曲です。

以上6曲のグッドマン・サウンドを豪華に凝縮したこのメドレーは、まさにベニー・グッドマンのヒットパレードといえるでしょう。

The List of Members

FLUTES & PICCOLOS

遠藤多珠子 岡田 正美 塩津 恵 野中 友雄※ 藤原 昭子
坂根 聡☆

OBOE

佐口 康晴☆ 丸橋 章勇☆

BASSOON

坂上 仁志☆ 西牧 岳☆

B^b CLARINETS

安宅 忠司 飯島 里枝 小野由紀子 児新 綾 関 文彰
戸板美穂子 水川かおり 森 久仁江 国富 美子

BASS CLARINET

渡辺 順子 岡本美津子

ALTO SAXOPHONES

尾関 祐里 関 博美 永森 理恵☆ 西嶋 敦子

TENOR SAXOPHONE

荻田 朋子

HORNS

川内美由紀 高谷麻里子 藤原 靖彦 岩田 俊哉☆ 三橋いずみ☆
永野 真弓

TRUMPETS & CORNETS

遠藤 博子 林 園子 藤原 裕之※ 渡邊 浩治
高田 祥聡☆ 森本久美子

TROMBONES

青森 剛 岡本 国芳 小原 則行 西郷 和博 高見 康彦
安原久美子

EUPHONIUMS

市場 美雄 小郷真由美 佐藤 裕史

TUBAS

矢尾 哲平 数野 一恵☆

DRUMS & PERCUSSION

今川真由美 平田 恭子 深見 順子 吉村 温子 影下 明子★
森本 将光

※指揮 ★トレーナー ☆賛助

☆ ごいっしょに吹奏楽しませんか？

倉敷アカデミックウインズでは常時団員を募集しております。学生時代に吹奏楽を経験された方で、その後も演奏活動が続けていきたいと思われている方、ぜひ一度見学にいらしてください。技術も伝統もまだまだこれからというバンドですが、私たちと一緒に楽しみませんか？

詳しくは倉敷アカデミックウインズ事務局（080-99-78649）までご連絡下さい。

☆ 倉敷アカデミックウインズのホームページ

当団では昨年9月からホームページを開設してインターネットに情報を発信しています。ページ上では団の紹介や活動履歴、演奏会の情報などのほか、クイズやチャットなども常設してみなさまのお越しをお待ちしています。ぜひ遊びに来て下さいね。

<http://village.infoweb.ne.jp/~fwht1432/kaw/kaw.html>